



## 第2回北区幼保小連携推進協議会を開催しました

11月4日(木)にオンラインではありましたが、今年度初めてリアルタイムでの会を開催することができました。今回は藤女子大学教授、大室道夫先生にご講話いただき、幼保小の接続について具体的に考える大変有意義な研修会となりました。概要をお知らせいたします。

講話 『幼保小の接続を考える』  
～幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(10の姿)の具体を通して～  
藤女子大学 教授 大室道夫 氏

### これまでの幼保小連携とこれからの幼保小連携

小学校学習指導要領と幼稚園教育要領変遷の歴史から、最新版のポイントについて分かりやすく説明していただきました。現在の各要領には、以下のように「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりとして、幼保小が連携を図ることの必要性が明記されています。

#### 幼稚園教育要領解説における記述

- (2) 小学校教育との接続
- (2) 幼稚園教育において育まれた資質・能力を踏まえ、小学校教育が円滑に行われるよう、小学校の教師との意見交換や合同の研究の機会などを設け、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を共有するなど連携を図り、幼稚園教育と小学校教育との円滑な接続を図るよう努めるものとする。
- (幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針にも同様に記載)

#### 小学校学習指導要領「総則」の記述

- (1) 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を踏まえた指導を工夫することにより、幼稚園教育要領等に基づく幼児期の教育を通して育まれた資質・能力を踏まえて教育活動を実施し、児童が主体的に自己を発揮しながら学びに向かうことが可能となるようにすること。
- (「総則」第2教育課程の編成4学校段階等間の接続)

そこで、これからの幼保小連携のポイントは…

### 幼児教育に携わっている先生と小学校の先生が合同の研修を行うこと

- 幼児教育・小学校教育のそれぞれの理解・カリキュラムはどのようになっているのか等々
- 子どもの姿の捉え(見取り)の理解
- 幼児教育で培われた資質・能力の生かし方の理解

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿  
(10の姿)

これを基に  
先生同士が  
共有していく

幼保小連携接続のキーワード

## 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(10の姿)をもとに子どもの姿を捉えてみよう

後半は、ビデオを視聴後、年長児だいきくんがコマ回しに挑戦する姿から、各自で「10の姿」を捉えるという演習をしました。今後の連携のポイントである、「10の姿」を手掛かりにして幼保小の先生同士で共有するとはどのようなことなのか、具体的に体験することができました。

### まとめ

- ◎ 幼保小の連携・接続が重要視されている。
- ◎ 子どもの発達や学びは連続している。私たちの指導も連続させていかなければならない。
- ◎ 保育者と小学校教員が、子どもの姿を基に語り合う機会を設定していく必要があるのではないか。
- ◎ 幼児教育で育まれた資質・能力を小学校教育で生かしていくようにしていかなければならない。  
(カリキュラム・マネジメント指導の在り方等)



“ほっぴい”  
北区まちづくりキャラクター

<振り返り用紙より> たくさんのご感想、ご意見をいただき、「幼保小連携の大切さを実感した。」という声が最も多くありました。その他一部ですが紹介いたします。

### ■ 幼保小連携の重要性について

- ・一人一人の子どもが安心して小学校生活を送るためにも、連携の重要性を感じた。(保育園)
- ・小中一貫と同じくらいの熱量とスピード感で、幼小連携に取り組むべきと感じた。(小学校)
- ・まずは幼保小の先生同士で顔を合わせてつながりをもつところから始めたい。(小学校)
- ・幼児期に育まれた資質・能力を小学校で生かしていくようにするために、幼保小で互いにカリキュラムを理解することが大事。(認定こども園)
- ・幼小連携だけではなく、幼児教育施設同士が同じ視点をもって子どもたちを捉え、育てていくことの重要性を感じた。(保育園)

### ■ 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(10の姿)について

- ・「10の姿」を基に幼保小で子どもの姿を共有し、スタートカリキュラムに生かしていく大切さが分かった。(小学校)
- ・「10の姿」が自然に育まれていくような環境づくりをしていきたい。(幼稚園)
- ・「10の姿」は保育の中の一瞬で結びつけることが難しいので、ビデオ研修のように振り返る機会をもつことが大事だと思えることができた。(認定こども園)
- ・日常的に「10の姿」を意識した保育を実践していきたい。(保育園)

### ■ 今後に向けて

- ・子どもの姿を見て、何をしているかではなく「何を学んでいるか」を捉えられるようにしたい。(認定こども園)
- ・小学校の先生ともっと関わる機会がもてると互いの教育を知ることができると思う。(幼稚園)
- ・困りを抱えている子どもに幼保ではどうアプローチをしているのか交流したい。(小学校)
- ・幼保小が互いに発信し合うことが大事。(小学校)

## ■その他 研修を通して感じたこと

- ・動画を視聴しての演習を通して、同じ子どもの姿でもいろいろな見取りがあることが分かった。多くの教師の目で見ること、一人の子どもの育ちをたくさんの角度から発見できると感じた。(幼稚園)
- ・いろいろな意見を聞いて新しい視点に気付くことができたので、直接近隣の幼保小で交流できるとよりよかった。(幼稚園・認定こども園・保育園・小学校)
- ・様々な保育施設があり温度差に苦慮している。情報共有だけではなく行動共有をしていけるとよい。(小学校)
- ・幼保小、それぞれの教師、保育者の資質向上と共通理解が大事。(保育園)
- ・近隣の幼保小で当たり前のように連携ができるようなマニュアルができることを願う。(認定こども園)
- ・文科で推進している『幼保小架け橋プログラム』に注目していきたい。(小学校)

## <大室先生への質問>

振り返り用紙に記載のあった大室先生への質問全てにお答えいただきました。大変丁寧にご回答いただきましたので、皆さんと共有できればと考え、別紙に掲載しております。是非今後の取組の参考にしていただければと思います。

講話の内容を  
録画した CD を  
お貸しします！



この研修会は ZOOM でレコーディングしております。校内・園内研修等で是非ご活用ください。希望される場合は、白楊幼稚園までお問い合わせください。

### 【貸出について】

- 1 白楊幼稚園と連絡を取り貸出日程を決める
- 2 白楊幼稚園に CD を取りに来る
- 3 白楊幼稚園に返却(郵送可能です)

### 【貸出の決まり】

- ・個人情報観点から、複製はお断りいたします。
- ・貸出期間は10日以内を基本といたします。(ご相談ください)

### 【連絡先】

札幌市立白楊幼稚園 TEL 736-0764

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(10の姿)」の資料や、講話のパワーポイント資料は白楊幼稚園ホームページから取得可能です。

白楊幼稚園 HP

→

北区幼保小連携推進協議会

## 編集後記

1年前には想像もできなかったオンラインでの幼保小連携推進協議会。皆様のご協力で無事に開催することができました。しかしながら、ご感想には「やはり直接顔を合わせて語り合いたい。」という声が多く寄せられました。今後は、オンラインもうまく活用しつつ、地域ごとに「10の姿」を手掛かりとして、保育者・教師同士で接続期を語り合えるようになることを願っております。

北区の子どもたちが一人残さず安心して小学校生活を迎えられるよう、地域で手を携えていきましょう。



(白楊幼稚園 松本)

## 北区幼保小連携推進協議会 大室先生への Q&A

Q1 幼保小連携を深めるための研修を進めるに当たり、具体的にどのような研修内容が考えられるでしょうか。(小学校)

- ・まずは、相互に足を運ぶことから始めると良いと思います。幼稚園や保育園ではどのような教育・保育が行われているのか、話を聞くだけではなく、実際に子どもが活動している姿を見るのです。担任をもっている先生方は、なかなか時間を見付けることができないでしょうから、長期休業の期間を利用することを考えてみてはどうでしょうか。
- ・その上で、子どもの姿をどう見取るか、お互いに交流できると良いと思います。幼児は、遊びを通して、たくさんのことを学んでいます。小学校の先生方が、遊んでいる中で何を学んでいるか見取れることが、ポイントになると思います。そうすると、その学びを小学校でどのように生かしていったら良いのか、見えてくるように思います。
- ・「カリキュラム・マネジメント」として少し話しましたが、「スタートカリキュラム」を見直す時に、近隣の幼稚園や保育園の先生を交えて話し合いをもつと良いと思います。これからの課題として、カリキュラムをどう繋げていくかということがあげられます。幼稚園や保育園の先生方にとっても、有意義な機会になると思います。

Q2 幼児期の年長世代に指導要領をきちんと作ることは賛否があると伺っています。幼児期の学びとして大切なことは何か知りたいです。(小学校)

- ・今回の改訂で、指導要録も大きく改訂されました。変更点はいろいろありますが、大きなこととして、研修でも扱いました「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」をベースに記述していくということです。指導要録は、子どもの記録として園で保管するとともに、小学校へ抄本または写を送付することになっていますから、この「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が、幼保と小を繋ぐキーワードになっているように思います。そこに示された 10 の項目 (10 の姿) が、まずは、幼児期の学びとして大切にしたいことだと考えています。
- ・指導要録に記述されている内容は、いわゆる「引継ぎ」に当たると思います。受ける小学校の側では、記述していただいた内容をしっかり受け止めて、学級編成や日々の指導に役立てたいものです。

Q3 配慮が必要な子どもの保護者の認識に差があり、園からの一方的な配慮を続けて就学を迎えることがあります。そのような場合、学校側ではそのように対応するのでしょうか。(認定こども園)

- ・小学校では、「引継ぎ」の時に、配慮が必要な子どもに関わる情報は、保護者の理解のもと、ぜひ提供していただきたいものの一つです。特にどのような配慮をしてきたのか、保育者がどのような関わり方をしてきたのかについては、今後小学校でどのように配慮していったら良いのか、どのように関わっていったら良いのかを考える上で貴重な情報です。
- ・小学校でも、その子にどんな力を身に付けさせたら良いのか、そのためにどのような手立てを取るが良いのか、保護者と相談し理解を得ながら進めていくことを大切にしています。

Q4 小学校に入学するまでに、これはできておいた方がよい、ということはありませんか。(認定こども園)

・「自分でできることは自分でする」という習慣を身に付けておいてほしいと思います。小学校に入学すると、一番下の学年になってしまい、どうしても甘えてしまいます(甘やかしてしまいます)。「自分でできることはもっとあるはず・・・」と思うことがよくありました。幼児期の教育で育てていただいたことをもとに、小学校教育でさらに伸ばしていきたいものです。

Q5 保育園と小学校1年生の生活に大きなギャップがあるように感じています。園ではのびのびと生活し、遊びの中での学びを大切にしていますが、年長担任として、就学に向けて意識的に取り入れた方がよいことがありましたら教えていただきたいです。(保育園)

・小学校入学をひかえた子どもたちは、期待感と不安感の両方を持ち合わせていると思います。小学校を訪問したり、そこで児童と交流したりなどして、不安感が少しでも小さくなるように手立てを取る必要があります。それと同時に就学に向けて大切なことは、「期待感」を高めることではないかと思います。「小学校に入ると楽しいことができそうだよ。」と、期待しながら入学してくれることを願っています。

・その上で、年長さんの後半では「時間」の意識をもたせると良いのではないかと思います。幼児期の教育では、子どもの思いを大切に活動が行われることが多く、活動の時間はかなり柔軟に扱われると思います。しかし、小学校教育では、学習内容と授業時数がしっかり決められていて時間割が組まれます。全体研修でご紹介しました入学当初の「スタートカリキュラム」では、弾力的な時間割を工夫することが示されていますが、「スタートカリキュラム」の時期が終わると、45分単位に区切られた時間割に基づいて進められます。子どもにとっては、かなり大きな変化になりますから、幼児教育の終わりの頃には、子どもの思いを大切にしながらも、時間で区切って活動を進めていくことも取り入れてみてはいかがでしょうか。

Q6 小学校の生活科を参観したことがないので、具体的に知りたいと思いました。学習指導要領「総則」の記述から、遊びを通して育まれてきたことがどのようにして円滑に接続されるよう、現場の先生たちは工夫しているのか気になります。(保育園)

・教育委員会からすべての小学校で入学当初のカリキュラムである「スタートカリキュラム」を作成するように求められています。まず、そこで円滑に接続されるように工夫されていると思います。そのように考えて作成したカリキュラムが、入学してきた児童の実態に合っていたのかどうか、指導の方法は適切だったのかどうか、マネジメントしていくことが大切です。その時にぜひ幼児期の教育に関わっていらっしゃる先生方に入っていただき、その立場で一緒に考えてくださると、より円滑な接続に繋がっていくのではないかと考えています。

Q7 学校生活に適應できない子どもが増加しているとのお話がありましたが、園生活の中で、子どもたちに伝えられることはありますか？(保育園)

・「学校生活に適應できない子ども」は、結果としてそうなるということですから、入学前の園児に伝えることは特にないと思います。園児が、自分の思ったことができる、思ったことが言える環境の中で育ててあげることが大切なのではないかと思っています。